

第15回架け橋会ゴルフコンペ（名古屋広幡ゴルフクラブ）

2013年11月23日(土)、ITC中部広報委員会主催の第15回架け橋会ゴルフコンペが名古屋広幡ゴルフクラブで開催されました。快晴の中、皆さんは勝敗にこだわらない豪快なプレーでゴルフを楽しみました。

架け橋会ゴルフコンペでユニークなのが、賞品を皆さんが一品持ち寄り、成績上位者から自由に選ぶというシステムです。外国や日本の観光地でお土産として購入されたもの、自身がお勧めの食材・飲料品、そして、女性が参加すると紳士小物なども登場したり、時には家庭菜園で採れた新鮮な野菜なども並びます。今回はお酒の持ち寄りが多く、清酒は大吟醸酒、吟醸酒、それぞれ酒処の逸品でした。ボジョレーヌーボーは二日前に解禁されたばかりのもの、また海外の地ビールは日本のラガービールとはいささか趣きが違うものでした。選ぶ順番によっては、お気に入りの物を選びたい、選ばれたいという感情が湧いて、ちょっとした愉しみな瞬間でもあります。

架け橋会ゴルフコンペはゴルフを通じてITC中部の皆さんの交流と親睦をはかっています。スコアにこだわらず、和気あいあいと楽しく開催していますので、たくさんの方のご参加をお待ちしております。

また、広報委員会では毎年他県のITCとの交流会を実施しており、本年度は平成25年11月9日(土)に「能美市ふるさと交流研修センター さらい」にて石川県を始め富山県・福井県のITCの方との交流会を開催しました。こちらも広報委員以外の方の参加も募集しておりますので、是非ご参加下さい。(ITC中部 溝口 光二)



第15回架け橋会ゴルフコンペ



ITC石川との交流会

事務局だより

ITC中部で理事をしています山本憲司です。1月より事務局のお手伝いも担当することになりました。週1回は名古屋ソフトウェアセンターに常駐するようにしていますので、何かありましたらご連絡をお待ちしております。

私は会社の名刺にITコーディネータの資格名をいれているのですが、先日、大阪出張時に営業支援で訪問したお客様の中に同じように名刺にITコーディネータの資格名をいれている方がいて、お互い一気に親近感がでて話が弾み、そのまま夜の梅田に飲みに行っちゃいました。まだお取引できていませんが、会社対会社ではなく個人対個人として今後、

継続してお付き合いできると思います。思い出すと私がITC中部に入ったきっかけも某プロジェクトで一緒になった方の名刺にITコーディネータの資格名が入っていたことにありました。縁というのは大事にしたいものです。また、税理士と中小企業診断士とITコーディネータの資格の3つを持っている先生にITコーディネータの資格を持っている人の特徴を聞くと、やはりバイタリティーをもっていてフットワークが軽くコミュニケーション能力に秀でた人が多いとのこと。私も若手？(37歳)ITCですが先輩に負けぬように頑張っています。(ITC中部事務局 山本 憲司)

重要なお知らせ

昨年の総会で承認いただきましたが、平成26年度からITC中部の会費が5,000円から8,000円に変更になります。会費には総会の費用が含まれていますので、いままで総会に参加されている方々にとっては変更がありません。いままで参加されていない方は、これを機会に総会への参加をよろしく願います。上記変更に伴い新年度になりましたら、速やかに年会費:8,000円を下記口座までお振込みくださいますようお願い申し上げます。

振込先

三菱東京UFJ銀行金山支店 口座番号:普通1090276
トクテイヒエイリカツドウハウジンアイ

NPO・ITC中部広報誌第22号 平成26年3月31日 発行

発行:NPO・ITC中部広報委員会(〒460-0022 名古屋市中区金山5丁目11-6(NSC内))
発行責任者:NPO・ITC中部 理事長 和澤 功 編集責任者:NPO・ITC中部 広報委員長 秋山 剛
ホームページ(http://www.itc-chubu.jp/)

架け橋

非特定営利活動法人
ITC中部
http://www.itc-chubu.jp/

クラウド特集



目次

クラウドって何だ!?

1

会計クラウドサービス利用時の
判断ポイントについて

2

中小企業の
クラウド活用について!

3

BizUp委員会活動報告

3

平成26年ITC中部
新年賀詞交歓会

3

第15回
架け橋会ゴルフコンペ

4

事務局だより

4

クラウドって何だ!?

私は、(株)中電シーティーアイに所属する企業内ITCである。主に、データセンター外販(中電グループ以外の一般のお客様を対象とする)営業を担当している。肩書きこそ部長であるが、やっている仕事は営業担当とあまりかわらない。正直言ってとてもつらいが、飛び込み営業も行う。概ね年商50億円以上の中堅・中小企業を一応ターゲットに営業しているわけだが、「クラウド」という言葉の浸透度には驚かされる。そして、データセンターを紹介したい、というクラウドの話と誤解されてしまう。

しかし、我々は、まずはハウジングサービスを提供したいと思って営業している。当社においてクラウドサービスの準備が進んでいないわけではないが、まず進めているのは中部電力のためのクラウドセンター準備である。もちろん、これは完全なプライベートクラウドである。一般企業にこの資源を使っていただくことはできない。一般のお客様用のクラウドサービスは、かなり先の話になりそうだ。そうすると、当面、ターゲット顧客のニーズと当社が提供できるサービスにはズレがあって、受注は難しくなる。

こんな形で営業に行き詰ると、「クラウドってなんだ!?!」と叫びたくなる。厳密な定義は他に譲るとして、要するに、お客様から見れば、インターネット経由でどこか(ほとんどの場合データセンター)にある資源(ソフト、ハード)を使って、それをサービス料金(無料の場合もある)として払う、そういうサービス形態のことで、SaaS、PaaS、IaaS等のサービスが展開されている。

今さら、そんなパブリッククラウドに参入するのは現実的ではない(規模勝負に勝てない)し、高価なプライベートクラウドが中堅・中小企業に受け入れられるはずもない。何か良いアイデアはないか悩んでいたとき、出会ったのが、(株)インフィニティーの大畑社長だった。

彼らは、「Office Cloud」というシンククライアントソリューションを展開していた。今年4月にサポート切れとなるWindowsXPを搭載したPCをそのままシンククライアントとして活用できるとあって、かなりの人気だ。当社も、(株)インフィニティーとアライアンスを組んでこの商材の販売を始めた。シンククライアントというかなり高価というイメージがあるが、既存PCをそのまま使用し、もともとWindowsが持っているリモートデスクトップ機能を使った簡単な仕組みなので、低価格で実現できる。しかも、これを導入すると、自分のデスクトップがスマホやタブレットからでも操作することができるようになる。「Office



ITC中部理事 磯部秀敏氏

Cloud」の基本形は、サーバをお客様のオフィス内に設置するものである(だから、「Office Cloud」という名称になっている)が、当社にご用意いただければ、サーバを当社のデータセンターに設置することもできる。これこそ、お手軽プライベートクラウドと言えなくもない。

これで、1つ売れる商材ができたが、自前でも何かほしいなと思ったとき、お客様から「BCPの一環で、データのバックアップを、別の場所に自動で取っておきたいが、ハウジングではなく、サービスとして提供を受けたい。」という話を聞いた。そこで、「オンラインストレージサービス」の提供を始めた。

これは、当社のデータセンターにストレージを準備し、お客様のシステム環境とVPN接続し、ファイルサーバとして利用していただく、というサービスである。他とちょっと違うのは、通信インフラ等は共用であるが、ストレージ装置は共用せず、お客様専用となっている。災害が発生したとき、多くのお客様が一斉にバックアップデータ等のリロードをかけたら、回線はパンクする。オンラインでのリロードができない場合を想定し、ストレージをお客様に貸し出すことが可能になっているのである。独立系ITCの皆さんには、BCPの一環として、ぜひクライアント企業様にお勧めいただきたいサービスの1つである。

(株)中電シーティーアイは、積極的にお手軽プライベートクラウドサービスを展開していきたいと考えているので、サービスのアイデア、アドバイス、アライアンスの提案等があればぜひご一報いただきたい。

(ITC中部理事 磯部 秀敏)

会計クラウドサービス利用時の判断ポイントについて

クラウドは流行から時代を象徴するキーワードへ確実に変わってきており、各種業務のクラウドサービス適用を検討される企業様が増えてきています。今回は、会計クラウドサービス利用時の判断ポイントについて整理します。

■標準利用を前提に考える

- 大前提として、会計システムは、
- ・会計基準や税法に準拠する必要性が高く、改修頻度が多い
- ・業務のコアプロセスは一般的・標準的なプロセスが支配している
- ・販売・生産といった企業の競争力を生み出すシステムとは対極になる定型バックオフィス業務システムである

といった特性から、

- ①標準化されたパッケージ製品を活用し
- ②初期コスト・改修コストがかさむカスタマイズやアドオンは極小化する
- ③更に維持改修要員を内部で保有しない方が望ましいという前提に立ち、対象となる会計システムの今後の姿を見極める必要があります。上記の3項目を満たすサービスが、まさに会計クラウドサービスです。

■享受できるメリット

会計クラウドサービス適用によって享受できるメリットは、

- ①早く立ち上げ、早く展開できる
オンプレミスが6ヶ月以上かかるのに対し、最短2ヶ月で立ち上げが可能。
- また、国内外問わず拠点展開や子会社新設の局面においても、インターネット接続ができるブラウザを用意し、マスタ設定するだけで、オンプレミスやC/S形式のシステムと比べて、事業展開スピードを落とさず展開が可能。グループ共同利用・シェアードサービスの基盤として最適です。
- ②安く利用できる
HW・OS・ミドルウェア・通信機器等のリソースをシェアして利用しますので、システム利用にかかるコストを圧縮できる。
- ③メンテナンス作業から解放される
更に、HW・OS・ミドルウェア・アプリケーションのバージョンアップや障害対応についてはサービス側で対応しますの

で、コスト圧縮に加えて、煩雑なメンテナンスや障害対応作業要員を維持する必要がなくなる。

- ④競争優位性を生むプロセスにリソースや投資をシフトできる前項①～③でコスト・リソースを圧縮し、より競争優位性を生む業務システムや今まで手が回らなかった戦略的な会計情報の活用に応用することができる。
- ⑤会計システム・会計帳簿の保全
堅牢なデータセンターでのデータ保全により、災害時でも会計帳簿を損失しない。等が主要なメリットです。投資の再配分・業務プロセスの見直しを促す機会として、クラウド適用を検討するのも有効な策だといえます。

■サービス提供企業選定時の留意点

最後に、会計クラウドサービス選定時は下記に留意してサービス提供企業を選定する必要があります。

- ①セキュリティ、データ保全性やサービスに対する信頼性が高い企業であること
- ②周辺システムとの連携に対するサービスや支援が提供できる企業であること
特に②については、今後ますますサービス間連携や、クラウドサービスとオンプレミスの組み合わせ等ハイブリッドな企業システムニーズが高まっていくと思われる。サービスを複合的にサポートできる企業を見極めるのが重要なポイントとなります。

～NECデータセンターを基盤とした会計クラウドサービス～
弊社においても、上記ニーズにお応えできるよう、NEC中部データセンターを基盤とした会計クラウドサービスを提供しています。今後、会計システムの再検討の際は、是非お声掛け下さい。事例も交えながら、オンプレミス、クラウド、ハイブリッド問わず、最適な会計システムの在り方のご検討を支援させていただきます。(ITC中部 野末 泰司)

<問い合わせ先>

NECソフトウェア中部 第二ソリューション事業部
人給会計ソリューション部
TEL:0561-75-1963 / E-mail:hmr-fn@cnes.jp.nec.com

クラウド利用の「3つ+α」のメリット

No More "Hardware"

システム導入の初期費用や毎年の保守費用を大幅に抑え、定額料金で固定化
ソフトウェア資産を持たず「費用扱い」として経理処理が可能

No More "Update"

自社内でのアップグレード作業やコストが不要
煩雑な制度改訂 (IFRSのコンバージェンス) に対して即座に対応

No More "SoftWare"

HW/OS/DBを自社で導入し、メンテナンスすることからの解放
セキュリティ対策や、最新のIT基盤(64bit)へのスムーズな移行

- ◇「会計帳簿保全」
BC(事業継続:ディザスタ・リカバリ)に向けた「会計帳簿保全」
- ◇「短期導入・短期切替」
サービス基盤の活用による短期導入・短期切替を実現
必要な時、必要なライセンスを拡張可能

中小企業のクラウド活用について

最近よく耳にする『クラウド』をご存じでしょうか。クラウドとは、クラウドコンピューティングの略で、平たく言えば、インターネット上にある様々な情報サービスのことで。

では、なぜ今クラウドが注目されているのでしょうか。それは、セキュリティ技術の向上に伴い、インターネット上のサービスが充実してきたからです。今のクラウドは中小や零細企業にとっても、とても魅力的なサービスになってきています。

クラウドを中小企業が導入するメリットを3つあげます。
【安い!】情報サービス導入の際、中小企業では自社サーバーを立ち上げると初期投資の負担が重くのしかかります。しかし、多くのクラウドは利用者数などに応じた課金システムのため、初期投資が大幅に抑えられます。また、専任の情報システム管理者も不要で、運用にかかる維持費も抑えられます。

【早い!】多くのクラウドは試用版が充実しています。従来とは異なりデモ環境の準備などが不要なので、インターネットにつながる環境

さえあれば、思い立ったその日からサービスを試してみることが可能です。実際のサービスを使って気に入れば、そのまま費用を支払い、すぐに本格運用に移行できます。

【簡単!】面倒なメンテナンス作業が不要で、IT管理者の負担を軽減できます。また、クラウドサービスの設定など管理全般を外部に委託することもできます。これにより、ITの専門家が社内に居なくてもサービスを簡単に維持管理でき、また、高度なサービスを利用することができ。

このように、クラウドは安く早く簡単な三拍子がそろった、まさに中小企業の味方です。特に入門としてお薦めするは、MicrosoftのOffice 365です。中小企業ではパソコンは必要に応じて買い、業務上必要なOfficeソフトのバージョンがバラバラになりがちです。Office 365では最新のバージョンを1人分から導入できます。まずは、XPのサポートが切れる今こそOffice 365を導入し、IT経営につなげてはいかがでしょうか。(ITC中部理事 森 孝義)

BizUp委員会活動報告

BizUp委員会では、平成25年度も幾つかの活動を行いましたので、以下に報告致します。

主な活動としては、①企業訪問、②勉強会・研修会、③BizUpセミナーなどを企画・実施しました。

【企業訪問】

10月には、株式会社Takayanagi様(浜松市)へ訪問と12月には、野外民族博物館リトルワールド様へ訪問しました。

企業訪問では、各社の経営への取組を講演頂き、リトルワールド様訪問では、ご家族の方々にも参加頂き、リトルワールドの学芸員による展示室での紹介や施設設立に纏わるエピソード等の説明もありました。

【勉強会・研修会】

プロセスガイドラインの読書会(7月)、名古屋アジャイル勉強会との連携によるワークショップ実施(9月)、XPのサポート停止に関する勉強会(10月)とITCとしての基礎知識を確認するための勉強会や、XPサポート停止という非常に大きなテーマについての紹介等を行いました。

【BizUpセミナー】

今年度も6テーマを3回に分けて行いました。

テーマは、海外のIT事情、Web活用、国内企業戦略、ISMS規格、人材育成、NLP入門と多岐に渡る内容でした。

どの活動も、ITC中部会員を始めとする皆様の参加により無事に行う事ができました。この紙面にて、改めてお礼申し上げます。

BizUp委員会では、今後も会員の皆様の実践力向上に役立つように各種活動を継続していきます。

また、BizUp委員会を定期的に開催しております。(概ね1回/月)活動に興味のある方は、ご連絡をお待ちしております。

(ITC中部 東條 理)



「BizUpセミナー第3回勉強会」

「リトルワールド勉強会」

平成26年ITC中部新年賀詞交歓会

2014年1月25日(土)ITC中部ブランドデザイン委員会主催の「平成26年ITC中部新年賀詞交歓会」が開催されました。

交歓会の前にはBizUP委員会主催の勉強会も開催され、両方参加すると、ITCA後援ポイント4時間分、自主勉強会ポイント2時間分が付与される企画とさせていただきます。

この行事は2009年1月31日(土)に名刺交換会として開催された初回から数え今年が3回目の開催となり、毎回20名前後の方に参加していただいています。中には3回とも出席していただいている賀詞交歓会ファンのおみえになります。(笑)

開催内容は、和澤理事長の乾杯から始まり、美味しいお酒と料理を楽しんでいただきながら名刺交換、異業種間の情報交換、交流を深めていただきました。アピールタイムでは各個人または所属されている企業・団体の日頃の活動内容、自社製品のアピール、またITC中部の各委員会の発表を行っていただきました。そして一番のメインイベント、豪華(?)景品が当たるビンゴ大会も行いました。今年の主な景品は、有名メーカーのウイスキー、三重の有名な日本酒、メジャーリーガー愛用のネックレスなど20点ほど準備させていただきました。1つ、1つ番号が読み上げられる度に一喜一憂があり大変盛り上がり、皆様楽しんでいただけたのではないかと思います。中締めは野村副理事長に御挨拶いただき終焉。参加賞として地球にやさしい紙ホチキスをお持ち帰りいただきました。参加していただいた皆様から、大変満足したとうれしいご感想をいただきました。ブランドデザイン委員では来年も更に盛

り上がるよう工夫した賀詞交歓会を開催させていただきます。皆様の参加をお待ちしております。また、一緒に楽しい各企画、ITC中部ホームページのメンテナンス、リニューアル等を行っていただけるブランドデザイン委員メンバーを募集しています。お気軽にお声掛けください。

(ITC中部理事 堀 哲也)



「平成26年ITC中部新年賀詞交歓会」の様子